



特集担当者のオススメ

ジャパンモビリティショー2023に行ってきました。会場内は熱気ムンムン、日本の“クルマ好き文化”も捨てたもんじゃないと実感した次第です。今回のショーではトヨタの記者発表の様子とランクルのBEVを取材してきましたので、気になる人はP52~55でチェックを！



【総力特集】…………… P42

地球上にはこのクルマでしか走れない場所がある。

ランクル イズ ベスト

P44 機能美なくしてランクルにあらず。
森津圭太チーフエンジニアインタビュー

P50 真打ち見参。
LAND CRUISER GR SPORT

P52 Japan Mobility Show 2023で明かされた
トヨタとランクルの未来のカタチ

P56 すべてがわかる完全保存版！
ランドクルーザー70年の系譜(1951~2021)

P58 ランクルのいままでとこれから
歴代モデルアラカルト！

P60 ランクル絶版フラモの千差万別
ランクル模型メモワール

P62 違和感ゼロに凝縮されたデザインの妙を見よ！
“Renoca”という選択肢

P64 富士サファリパークのナビゲーションカーとして
はたらくランクル！

P66 アウトドアを縦横無尽に駆け回る
ナナマルピックアップ

P68 時代を共に過ごしたランクルの好敵手
懐かしのライバルと呼ばないで

P70 ロクマルオーナーの密かな悩み
人気者はつらいよ

P72 実車に迫る迫力を見よ！
ランクル300系のRCカーに首っつけ

P74 ドキッ！ 丸ごとランクルだらけの
オフロードドライブレッスンに潜入

P78 目指せ！本気のラグジュアリーカー
300系ランクルだってカスタムしたい！

P79 エムズスピード&ランクルの華麗なる関係

P80 文房具・食品・ファッションetc
ランクルと同一歳の傑作品

P82 Epilogue
悪路は続くよ、どこまでも

mono

CONTENTS.2

2023.12-2 No.927

mono編集部モノ差し	006
ジン・デボ	010
柳町正蔵の「ミステリー・カセット」	028
うーん、うなるモノ	038
モノ進化論	040
こちら杉並区阿佐ヶ谷南大谷文具店	085
monoの大捜査線	088
宮内裕賀の「日本イカ化計画」	101
金属恵比寿 高木大地の「狂気の楽器塾」	112
みうらじゅんの今月の「グッとくる宝物ベスト2」	119
クローボ	120
スタイリングモノ	123
新製品情報	130
みんなの時計	134
モノ・ショップ新聞	136
インフォメーション	138
バックナンバー	139
次号予告	140
モノ・ショップジャーナル	141

【巻頭企画】

演奏が身近にある デイリーライフ ワンツースリーフォー GAKKIやろうぜ 102

新型コロナウイルスの影響でうち時間ができたことで、楽器をやってみようというファン層が増えた。行動制限も明けた今、楽器演奏の魅力はすっかり定着した感がある。そこで、この流れをさらに拡充すべく、デイリーライフのなかで楽器演奏を楽しめるイマドキのインストルメンツをピックアップ! 明日からあなたもミュージシャン!



【巻頭企画】

「あったか〜い」がイイね 012 乗り切れ!暖かモノ

今年の冬は暖冬傾向と予想されているが寒さ対策は必須だ。加えて光熱費の高騰もあり暖房器具を買い替え節電対策をしたり、高性能なウエアを新調するなどして備えたいところ。今号では最近人気の空気を乾燥させないヒーターやバッテリーで発電するサーマルギア、さらにアンダーウエアや飲料、グッズなど厳選して紹介する。

【連載企画】

文と構成 / 河村喜代子 写真 / 米議会図書館、米海軍、GAO、WPPコレクション
Text & Edit / Kiyoko Kawamura Photo / Library of Congress,
US Navy, GAO, WPP Collection

兵士が行くところならPXも行く。 094 ポストエクスチェンジ物語 第29回

第2次世界大戦で「ミッドウェーの海戦」が戦われた環礁。現在は確実に人間よりは、アホウドリの数の方が多い。米海軍が1965年ころに出した「リビング・オン・ミッドウェー」の小冊子から、島内の軍施設と兵士たちが、「わが海軍のもっとも美しい島」にいた時代をたどる。





アテックス 「フェムオンテック 温灸 AX-HPL151」

価格9900円
火を使わずに繰り返し使用できるデジタルお灸。高い熱伝導率をもつグラフェンを使用しているのでボタンひとつで即暖。最大約56度、3段階の温度調整ができる。
◎アテックス ☎0120-486-505



マムート 「Icefall SO Thermo Hooded Jacket AF Men」

価格7万2600円
グースダウンと防水機能を備え、ボリューム感がありつつ動きやすいソフトシェル素材を採用。これ1枚で仕事からアウトドアまで幅広く着回せる断熱ジャケット。
◎マムート スポーツグループジャパン ☎03-5413-8597

ミレー 「トリロジー アイコン ダウン フーディ」

価格5万8300円
断熱性に優れた800フィルパワーのグースダウンに撥水加工を施し、表生地が風や水滴をシャットアウトする軽量ダウンジャケット。コンパクトに折りたためる。
◎ミレー カスタマーサービス ☎050-3198-9161



ペンドルトン 「ハーディング ブランケットロープ」

価格6万6000円
一生使えるウールブランケットの定番ペンドルトンより、ハーディングパターン100周年限定カラーが登場。家の中やドライブシーンにも使える163×203cm。
◎エイアンドエフ ☎03-3209-7575



※商品を55℃まで加温し気温10℃の環境で温度変化を測定。現行品と比較して温かさ(液温40℃以上)が約1.3分長く持続し、最大で1.0℃の液温差を確認。



アサヒ飲料 「アサヒ おいしい水 天然水 白湯」

価格113円
2022年冬に発売後、予想の3倍の売れ行きだったというペットボトル入りの白湯。今年9月に、中身がより冷めにくい不織布素材の保温ラベルを採用してリニューアル。
◎アサヒ飲料 お客様相談室 ☎0120-328-124



ウォームギア特集

乗り切れ! 暖かモノ

早いもので2023年ももうすぐ年末。この冬をぬくぬくに乗り切る準備は万全だろうか？ 世界情勢の影響から燃料費や電気代がますます高騰するとされるなか、冬の暖かモノ市場には新たなウォームギアが次々と登場している。日常にプラスワンするだけで確かに向上する快適さ。これは利用するっきゃない!

文/小堀真子

アイトス 「フリース衿付きヒータージャケット(男女兼用)」

オープン価格(実勢価格1万円前後)

ルームウェアにちょうどいいシンプルなボアフリースに、最大55度、10秒即暖のヒーターを首裏と背中〜腰にかけての2箇所に搭載。家庭で手洗いできるのも便利。バッテリー付属。
◎アイトス ☎06-6262-8500



ニッポンスリッパ 「コアフィール ぎゅっぱー」

価格2640円

中敷のつま先部分をカットして段差をつけた、ユニークな構造のルームシューズ。これを履いたままあし指で「ぐーぱー」運動をすると、足の表面温度がグンと上昇する。
◎ニッポンスリッパ

https://www.nippon-slipper.com/contact/

ミスノ 「ブレスサーモ リップルキルト クルーネック シャツ[メンズ]」

価格9900円

独自の吸湿発熱素材ブレスサーモと、袋編みの3層立体構造による保温素材。1枚着るだけであたたかく、冬のスポーツからワンマイルまで幅広く使える。

◎ミスノ お客様相談センター ☎0120-320-799



パナソニック 「フル暖房エオリア UXシリーズ」

オープン価格(実勢27~38万円前後)

運転時の排熱を暖房エネルギーに有効活用する独自システムにより、霜取り運転中も暖房をキープ。2024年モデルよりサーキュレーションモードも新たに搭載。
◎パナソニック ☎0120-878-692

巻頭特集

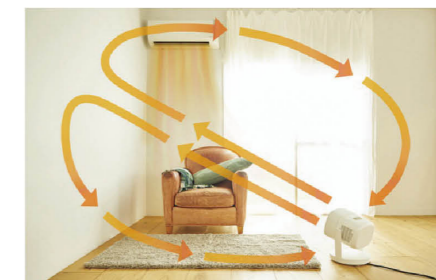


シロカ 「HOT&COOL サーキュレーター ポカクール」

実勢価格2万4860円

温風・送風の機能で冬はヒーター、夏は扇風機として使用可能。送風時は約20m先まで届くパワフルな風、最小騒音値約16dbの快適な使用感も魅力だ。

◎シロカ ☎0570-001-469





ランクル
ベスト

トヨタ自動車
MS製品企画 ZJチーフエンジニア
森津圭太さん

1999年トヨタ自動車入社。当初は自動車のフレームや機能部品の設計を手がけ、その後アメリカに出向してグローバルモデルの製品企画を担当。帰国後は現行型カマリのコンセプトから開発・リリースまで、すべての工程に携わる。2021年発売の300系ランドクルーザーでは開発主査を務め、現在に至る。そのほかにも“SUV北米4兄弟”も担当。

機能美なくしてランクルにあらざる。

どんなに過酷な環境でも安全に走れるクルマ

トヨタでは1車種のコンセプト、デザイン、設計、評価、生産、品質保証、販売という開発・販売における全プロセスの責任を担う人物を「チーフエンジニア（CE）」と呼んでいる。過去には「主査」と呼ばれていたのがCEだが、今回のランクル特集では、現在のランドクルーザーCEである森津圭太さんへのインタビューを実施することができた。

最初はランドクルーザーというクルマの「存在意義」やコンセプトについてうかがうことにしたい。

地球上の人々の生活を支えるのもちろん、安心・安全を提供するのがランクルの役割



日本国内では高級SUVのイメージが強いランクルだが、世界では過酷な環境に暮らす人々の生活をサポートするという重要な役割を担っている。ひとことで過酷な環境といっても砂漠・荒野・氷雪など多様で、ランクルはそのどこでも走れるタフさが評価され、人道支援にも使われている。

活や仕事を支えることにあります。

実際に灼熱の砂漠から極寒の地まで、ランドクルーザーが使われる環境はさまざまですが、どこでも走れる対応力の高さとタフさ、そして運転のしやすさなど、ランドクルーザーに求められる性能はきわめて厳しいものがあります。その要求に応えるために設計段階で詳細な検討を行い、さらに実際にそうした環境にテスト車を持ち込んで徹底的な実走試験を行います。とくに実走テストでの評価を大事にしていて、厳しい試験基準をクリアしてはじめて販売に移すことができるのです。テストを海外で行うことも多いのですが、私どもできるかぎり現場に足を運んで自分でもハンドルを握って確認を行います。これもお客様に安心と安全をお届けするためです。

ランクルは実用車であり、エクステリアのデザインにもすべてに意味があります。細かい点に関しては後ほどお話ししますが、機能を優先してはいるものの、もちろん見栄えも考慮していることはいうまでもありません。

ランドクルーザーは現在のトヨタ車でもっとも長く使われている車名になりました。すでにランクルという呼び方も定着していて、皆さんから愛されている証拠だと思いますが、その歴史と進化はこれから続いていきます。

“5大陸走破プロジェクト”で
見えた課題とは？



TOYOTA GAZOO Racingが2014～2019年に行った5大陸走破プロジェクト。この企画には200系ランドクルーザーも参加し、長時間の乗り心地など多数の課題を発見した。

発売直後から高い評価を得て、長期の納車待ちがニュースになるほどの大人気モデルとなった現行の300系ランドクルーザー。同車のすべてを知り尽くすチーフエンジニアに「ランクルとはどんなクルマなのか？」を歴史やコンセプト、メカニズムも含めて存分に語ってもらった。

写真／トヨタ自動車 熊谷義久 文／長谷川敦

ランドクルーザーシリーズ チーフエンジニア

森 津 圭 太

K e i t a M o r i t s u

見参。

TOYOTA LAND CRUISER GR SPORT

車両本体価格770万円~800万円

トヨタ自動車 お客様相談センター
☎0800-700-7700

●全長：4965mm ●全幅：1990mm ●全高：1925mm ●ホイールベース：2850mm
●車両総重量：2835kg(3.3ℓディーゼル車)、2905kg(3.5ℓガソリン車) ●最高出力：309PS/4000rpm(3.3ℓディーゼル車)、415PS/5200rpm(3.5ℓガソリン車) ●最大トルク：71.4kgf・m/1600-2600rpm(3.3ℓディーゼル車)、66.3kgf・m/2000-3600rpm(3.5ℓガソリン車) ●燃料タンク容量：80ℓ



GR SPORTは、トヨタが開発するSUVの頂点に君臨するランクルのなかでもっともスポーティなモデルであることはクルマ好きなら百も承知。ほかのグレードにすら乗ったことがない私(カトウ)、いざなりGR SPORTを試乗する機会を得てワクワクしたのと同時に、ちよびりキンチョーしたのはここだけのヒミツだ。そんなGR SPORTとの初対面の感想は「アカイ」。主張が激しいTOYOTAロゴやラジエターグリル&ヘッドランプを高い位置に配置してオフロード走行時の機能性を重視した精悍な顔つきも威圧感満点だけに市街地では目立つこと必至で、対向車や歩行者の視線を独り占めすることに(笑)。実際に運転してみるとサイズのデカさはすぐに慣れて問題ナシ。GR SPORTではエンジンに3・3ℓディーゼルと3・5ℓガソリンの2種類のV型6気筒インタークーラー付ツインターボが設定されているが、今回試乗したのはディーゼル車。300シリーズに向けて新開発されたエンジンだ。あって、トーションの私には必要

電子制御でスタビライザー効果を変化させる世界初のE-KDSSはGR SPORTだけの特権!

E-KDSSは電子制御でスタビライザー効果を変化させるGR SPORT専用装備。これは、前後のスタビライザーを独立して自動で電子制御し、路面状況や前後輪それぞれの状況に応じてスタビライザーをロックしたりフリーにするもの。スタビライザー効果をより細かく変化させることで、旋回時の安定性向上(ロック時)や悪路走行時のタイヤ接地性向上(フリー時)が図れるハイテク装備なのだ。



コイツ、想像以上にデッカいぞ……



にして充分すぎるスペックであったことは言うに及ばず。「そんなことはわかっている」と言われればそれまでだが、低速からトルクがモリモリで市街地では乗りやすいし、高速道路での追い越し加速もスゴいのなんのって! ほかに写真とともに説明しているように感動の連続に見舞われた試乗期間。そのパフォーマンズのほんの一部しか体感できなかったこともまた事実だが、最後に一言「GR SPORTよ、アンタはスゴい!」



市街地と高速道路での走行機会を得た今回の取材。車体のデカさは慣れてしまえば無問題、ディーゼル車とは思えない室内の静粛性の高さ、3トン近い車重をもっともしない力強い走り、疲れ知らずの本革シートなど、すべてが快適であった。



真打ち



GRロゴが誇らしい8WAYパワーシートは座り心地も最高。ステアリング・シート・ドアミラーの位置を記憶するマイコンプリセットドライビングポジションシステムも装備して至れり尽くせり。



ラジエターグリルや前後バンパーをはじめ、ホイールアーチモール、エンブレムなど、GR SPORTはエクステリアも枚挙に暇がない専用装備を満載! とはいえ、標準モデルと同様に前後バンパーの下部は障害物をいならず造形にするなど、悪路走行時の機能性もしっかりと担保されている。



ラゲージスペースはセカンドシートを折りたたまなくても余裕の空間が確保されているが、セカンドシートを折りたたむと幅1320mm、高さ945mm、奥行き1865mmのさらなる大容量空間が広がる。



ドライバーの手が届きやすい場所にドライブモード、モードセレクト、マルチテレンセレクト、クロールコントロール、ターンアシスト、センターデフロック、トランスファー切り替えといった各種スイッチが最適配置され、世界の最先端をゆく陸の巡洋艦であることを誇示するかのよう機能的なコックピットは運転席に座るだけで気分が上がる!

世界中のモータースポーツで培った技術と情熱を惜しみなく注ぐスポーツカーブランドの「GR」の名を冠したランドクルーザーGR SPORT。ランクルのラインナップ中、一番スポーティな1台は乗ってもやっぱりスゴかった。
写真/熊谷義久 文/モノマガジン編集部

ランクル
イ
ベスト

浅倉 大介氏の 目線

ヤマハ・シンセのキーマン

Super Knob

MONTAGE Mの操作性の肝心がスーパーノブ。最大280ものパラメーター変化を設定でき、ライブでもノブひとつひねりで想像を超える音色変化が可能。ほかアナログシンセでは定番のホルタメントやキーホールド、リボンコントローラーも装備している。

Sound

音源は贅沢にも3種類を搭載。「AN-X」はバーチャルアナログ音源。「FM-X」はヤマハが培ってきたFM音源の最新版。「AWM2」は生楽器の再生などに威力を発揮するサンプリング音源だ。この3つの音源を時にソロで、時に掛け合わせて独自の音色を作り上げる!

MONTAGE M8x
価格51万7000円

MONTAGE M7
価格47万3000円

YAMAHA

MONTAGE M6

YAMAHA

MONTAGE M6

オーディエンスに主張するリアパネルはシンセサイザーのもうひとつの顔だ。

「AN-X音源のポルテージ、ドリフト」とエーjingは「MONTAGE M」を代表する機能に思えます。前者は往年のアナログシンセ固有の電圧の不安定さを、後者は内部回路のエーjing変化に由来するゆらぎや温かみを再現できるパラメーターです。また演奏機能としては「好みのホルタメント」がアナログ好きにはたまらない「キーホールド」を押しはさむサウンドを保持してくれるため両手以上の操作が一度にでき、音作りのメリットが大きいです。そして演奏者として嬉しいのがMONTAGE M8xに

搭載された「ポリフォニックアフタータッチ」です。弾いている和音の内の一音だけに音色変化を与えることができる機能で、ヤマハの歴史的アナログシンセ80以上の搭載機種にこの機能は備わっていません。MONTAGE Mは個人的に「デジタルシンセの究極の形だ」と感じている「モンスター」を強化したモデルですが、画面やタッチパネルが充実し、ツマミをたくさん回して音色を創造しようぜ!というアナログシンセの考え方を無理なく融合していることに驚かされました。(浅倉さん談)

TOUR
[access TOUR 2023 ULT]

11月23日(木)祝 神奈川	ハーモニーホール座間
12月3日(日)埼玉	サンシティ越谷市民ホール
12月17日(日)愛知	Niterra日本特殊陶業市民会館ビレッジホール
12月22日(金)東京	LINE CUBE SHIBUYA

NEW DISC
access | CROSSBRIDGE -Remastered Edition- 11月8日リリース

ヤマハ MONTAGE M6 MONTAGE Mの61鍵盤モデル。高品位な演奏感を約束するFSX鍵盤を採用。音楽制作はもとよりライブでも持ち出しやすいフットワークに優れた一台。サイズ:幅1037×奥行396×高131mm、質量15.3kg、価格44万円。

User Interface
音色の変化からエディットまで効率的に行うディスプレイやサブ画面「セカンド・ディスプレイ」を新搭載。シンセサイザーサウンドのパラメーターの視覚的、直感的な操作を実現する。プレイヤーの狙う音を瞬時に創造するためのインターフェースだ。

シンセサイザーを一般に普及させた功労者とも言べき名機ヤマハDX7の登場から40年。いつしか音楽制作の担うツールのひとつとなったシンセをいまいちど鍵盤奏者の手に取り戻したヤマハ・シンセの原点回帰、それがMONTAGE Mシリーズだ!

文/モノマガジン編集部
©ヤマハ 0570-015-808

GAKKI やろうぜ!

おかげで シンセサイザー!

在になりがちな鍵盤奏者に再びスポットを当てられるだろ、ロック魂あふれるハングリーなシンセ、それが「MONTAGE M」なのだ。

1983年に登場したヤマハDX7はデジタルシンセの出発点だ。24万8000円という価格も破壊的で、世の鍵盤奏者がこぞって買ったと言つて過言でない。それから40年目の今年の最注力モデルとして登場したのが「MONTAGE M」シリーズだ。発表会場にはプレイヤーとして、またヤマハ・シンセのアドバイザーとしても知られる浅倉大介さんが登場。貴重なコメント(別項参照)と壮絶なプレイを魅せた。

MONTAGE Mシリーズ最大の特長は3つの心臓ならぬ音源をもつことだ。バーチャルアナログ音源の「AN-X」、ヤマハ伝統のFM音源の現代版「FM-X」そしてサンプリング音源の「AWM2」がそれにあたり、多機能な画面やノブによる音色創造の操作への配慮もバリエーションが豊富。MONTAGE Mは多くの高品位な音色を搭載するのみならず、自分らしい音色を創造する、ザ・シンセサイザーなのだ。

モニターでの操作性も練り込まれている。メイン+サブ画面による効率的な情報表示と同時に、最大280ものパラメーターの変化をひとつひねりで操れる「スーパーノブ」はシリーズを代表する機能とも言えるし、アナログライクな「ホルタメント」「キーホールド」に、「リボンコントローラー」(キース・エマーン!)も搭載。音楽監督然としていささか地味な存在

Publisher

今井今朝春
Keshaharu Imai

Editor-in-Chief

前田賢紀
Takanori Maeda

Deputy-Editor

関谷和久
Kazuhisa Sekiya

松崎薫子

Kaoruko Matsuzaki

Editor

小野正章
Masaaki Ono

大谷 暁

Satoru Otani

片岡静香

Shizuka Kataoka

加藤文晶

Fumiaki Kato

友井健人

Taketo Tomoi

竹本 泉

Izumi Takemoto

藪崎 大

Dai Yabuzaki

Directing Editor

土居輝彦
Teruhiko Doi

Art Director

若山トシオ
Toshio Wakayama

Designer

フェイヴァリット・グラフィックス
favorite graphics

伊藤たまお

Tamao Itou

小柳英隆 (雷伝舎)

Hidetaka Koyanagi (Raidensha)

Staff Photographer

鶴田智昭
Tomoaki Tsuruda

青木健格

Takenori Aoki

Advertising Director

坪井一雄
Kazuo Tsuboi

鈴木敏弥

Toshiya Suzuki

上田秀一

Shuichi Kanda

Production Director

小川俊介
Shunsuke Ogawa

Circulation Manager

笹川裕史
Hiroshi Sasagawa

Print

Dai Nippon Printing Co., Ltd.

DTP

Base, Nagi

ワールドフォトプレス総合サイト

モノマガジンweb に遊びに来てね!
https://www.monomagazine.com/



SNSでも新鮮情報発信中! フォローしてね!

https://www.facebook.com/monomagazine1982/

https://twitter.com/monomagazineweb/

スマホでもモノマガジンが読める

「dマガジン」「楽天マガジン」「ビューン」をチェック!

NEXT

次号予告

特集

特集

総力特集

大ヒット公開中『ゴジラ1.0』を深掘り!

生誕70周年・ゴジラ大特集

君はもう『ゴジラ1.0』(マイナスイオン)を観たか!? 映画の感動と興奮が蘇る最新ゴジラグッズ総進撃、山崎貴監督とメインキャストのインタビューは公開後だから明かせる裏話も飛び出す!? さらに70年に渡る歴史シリーズ作品のマンアックな情報に驚け。ゴジラが勝つか? モノ・マガジンが勝つか! 地球最大の特撮大特集!

腕時計にピッタリなベアリングとは?

おとこと酒と腕時計

お酒と腕時計……。このふたつ、じつは世の男性陣が大好きな嗜好品! 就寝前にお酒を味わいながら腕時計を眺める時間こそ、天が大のおとこにあたえてくれた至福のひと時なのだから。そこで、最上の時をさらに盛り上げてくれるお酒と時計を紹介しよう。ずっと愛でていたくなるデザイン・素材の時計に相性ピッタリのお酒はどれだ?

趣味な男の熱中ギア!

美音と文房具

趣味な男のこだわりグッズといえば、美音を奏でるオーディオ&一生モノの文房具! 今回は、ワイヤレスイヤホンやヘッドホン、至極の家時間を過ごすことができるオーディオ機器をはじめ、デザインと品質に定評のある高級筆記具やペンケースなどの文房具を紹介! 憧れのアイテムを手に入れて、新年をハッピーに迎えよう!

■うーん、うなるモノ

■モノ進化論

■mono編集部モノ差し

■monoの大捜査線

モノマガジン12-16情報号 NO.928

12月1日(金)発売 特別定価 750円(税込)

●モノ雑誌のバイオニア 毎月2回(2日・16日)発売

mono

発行人 ●今井今朝春

編集人 ●前田賢紀

発行所 ●株式会社ワールドフォトプレス

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-12-1

アズ阿佐ヶ谷

TEL:03(6383)2331 [編集部]

03(5929)7682 [メディアビジネス部]

03(6383)2390 [販売部]

FAX:03(6383)2583 [編集部]

03(6304)9443 [メディアビジネス部]

03(6383)2574 [販売部]

印刷所 ●大日本印刷株式会社

●編集の都合上、内容が一部変更される場合もありますのでご了承ください。

●乱丁・落丁は送料小社負担にてお取り替えいたします。

●本文中の価格は消費税込みの総額表示です。実勢価格は編集部調べの価格です。